

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PAT-NO: JP02001229297A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001229297 A

TITLE: FUNERAL SYSTEM USING INTERNET

PUBN-DATE: August 24, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MATSUZAKI, TSUNEO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SANYU LIFE SERVICE KK	N/A

APPL-NO: JP2000084958

APPL-DATE: March 24, 2000

PRIORITY-DATA: 11352403 (December 10, 1999)

INT-CL (IPC): G06F017/60, H04L012/54 , H04L012/58 ,
A47G033/00

ABSTRACT:

【特許請求の範囲】

【請求項1】 計報広告媒体で特定人の葬儀ホームページURLを知らしめる手段と、
前記特定人の葬儀情報を公開するための前記葬儀ホームページを葬儀サイトに関連付けて設ける手段と、
弔問者として弔問メールを記入し送信するための書き込みページを前記葬儀ホームページに関連付けて設ける手段と、
映像音声により、および映像音声とともにリアルタイムに葬儀の様態を表示する弔問ページを前記葬儀ホームページに関連付けて設ける手段と、
前記書き込みページの弔問メールを受信した場合に、弔問者リストとして所定項目をデータベース化するDB手段と、
前記弔問者に対し御礼を含めて返信する際に、前記DB手段の弔問者リストを用いる手段と、から、少なくとも構成されることを特徴とするインターネットを用いた葬儀システム。

【請求項2】 弔問受付、焼香、お悔やみの言葉、を記入し送信するための書き込みページを前記葬儀ホームページに関連付けて設ける手段を、有することを特徴とする請求項1記載のインターネットを用いた葬儀システム。

【請求項3】 前記葬儀サイトには、特定人の葬儀情報を公開するために前記特定人の葬儀ホームページに関連付けて、
故人略歴を記載するコンテンツと、
会社概要を記載するコンテンツと、
新聞計報を記載するコンテンツと、
式場案内を記載するコンテンツと、
葬儀式次第を記載するコンテンツと、
参加者名簿を記載するコンテンツと、
弔問メールを書き込み送信するコンテンツと、
導師略歴を記載するコンテンツと、のうちの少なくとも一つ以上を備えてなることを特徴とする、請求項1記載のインターネットを用いた葬儀システム。

【請求項4】 前記葬儀サイトには、特定人の葬儀情報を公開するために前記特定人の葬儀ホームページに関連付けた前記弔問ページが設けられ、該弔問ページと関連付けて、
弔辞を映像表示するコンテンツと、
弔電披露を映像表示するコンテンツと、
葬儀委員長挨拶を映像表示するコンテンツと、
呼名焼香を映像表示するコンテンツと、
遺族親族焼香を映像表示するコンテンツと、
一般会葬者焼香を映像表示するコンテンツと、
遺族代表者挨拶を映像表示するコンテンツと、
葬儀会場風景を映像表示するコンテンツと、のうちの少なくとも一つ以上を備えてなることを特徴とする、請求項1記載のインターネットを用いた葬儀システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は新しい形式の葬儀システムに係り、特にインターネットを用いた葬儀システムに関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、大きな葬儀、例えば社葬などを行う場合は多数の関係者が、広範囲に存在することになる。このような社葬では、関係者は葬儀へ参列するために、日程の調整を行い、遠隔地より葬儀式場へと赴く事となる。また、葬儀に限らず、例えば複数の事業所間で同時に会議を行うなど、関係者が広範囲に存在する場合に、日程調整や、所在地によらず全世界的に、リアルタイムで映像をやり取りするための手段として、衛星通信を用いる手段が知られている。また、遠隔地間の会議等においては、テレビ電話を用いた映像情報の伝達手段が用いられており、実際にはサテライト会議などが知られている。

【0003】さらに、インターネットを用いたテレビ会議システム「CU-See Me」により、映像音声のやり取りを行い、お互いに顔を見ながら会話することが可能であることが知られている。このようなインターネットを用いたテレビ会議システムの場合には、専用のCDテレビカメラとアプリケーションソフトを必要とする。これらのファイルのデータサイズは大きく、ISDNなどの高速回線により、操作性、利便性を発揮するようになっていることが知られている。

【0004】また、上述した葬儀の場合には、葬儀終了後、弔問者に対し礼状を送付することが慣例となっているため、参列者の住所・氏名等の情報について、受付記帳簿を元に特定し、宛名書き作業を行っていた。これを電子的に処理するには、受付記帳簿を元に氏名・住所録などのデータベースとして作成する必要があるが、これらのデータ化は、受付記帳簿を元に、手入力によるデータベース作成を行っていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】一般に、葬儀関係者が地域的に広範囲にわたる場合、葬儀が行われる際に、弔問参列者の日程の調整、および遠隔地から葬儀へ赴く事は、弔問参列者にとっては困難な場合がある。また、衛星通信を用いて、リアルタイム映像を得る手段では、高コストとなる。さらに、衛星通信、テレビ電話を用いた映像情報の伝達手段では、映像を表示する機器設備の不備により、弔問者各人に対し、映像情報を提供することは困難である。

【0006】また、弔問者のデータベースを作成する際に、受付記帳簿を元に、手入力によって、データベースの作成をすることは、煩雑な作業であり、膨大なデータ数の処理を行うには、非効率である。さらに、データベースを作成した後、弔問者に対し、礼状を送付しなけれ

ばならず、宛名書きを行う作業は、弔問者への迅速な礼状送付が困難となる。

【0007】本発明は、葬儀ホームページにおいて、葬儀の模様をリアルタイムで映像表示することが可能な、インターネットを用いた葬儀システムを提供することを目的とする。

【0008】また、本発明は、葬儀ホームページにおいて、実際には式場に赴かなくても、弔問することが可能な、インターネットを用いた葬儀システムを提供することを目的とする。

【0009】さらに、本発明は、葬儀映像のリアルタイム表示を全世界的に発信する事が可能な、インターネット通信におけるWWWサービスを用いたホームページ閲覧という容易でかつ低コストな手段を提供することを目的とする。

【0010】また、弔問者リストを自動的に取り込みデータベース化を行い、御礼を含めた返信作業の自動化を可能とする、インターネットを用いた葬儀システムを提供することを目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】上記課題は、本発明の請求項1に係るインターネットを用いた葬儀システムによれば、計報広告媒体で特定人の葬儀ホームページURLを知らしめる手段と、特定人の葬儀情報を公開するための葬儀ホームページを葬儀サイトに関連付けて設ける手段と、弔問者として弔問メールを記入し送信するための書き込みページを葬儀ホームページに関連付けて設ける手段と、映像音声により、および映像音声とともにリアルタイムに葬儀の模様を表示する弔問ページを葬儀ホームページに関連付けて設ける手段と、書き込みページの弔問メールを受信した場合に、弔問者リストとして所定項目をデータベース化するDB手段と、弔問者に対し御礼を含めて返信する際に、DB手段の弔問者リストを用いる手段とから少なくとも構成されることにより、解決される。

【0012】本発明によれば、弔問者は新聞等の計報広告上において、葬儀ホームページURLを知る事が可能であり、この葬儀ホームページをコンピュータ（パソコン等）で閲覧する事で、特定人の葬儀情報を正確に得る事が可能となる。

【0013】さらに葬儀に赴く事が予め不可能であると思われる場合は、弔電の代替として、弔問メールの書き込み送信を行う事が可能である。さらに葬儀開催者および弔問者は、それぞれインターネット接続されたコンピュータを用いて、容易でかつ低コストな、WWWサービスを用いたホームページ閲覧を行う。これにより、葬儀開催者は葬儀映像のリアルタイム表示を全世界的に発信し、弔問者は弔問ページの閲覧により、時間や場所に因らず、映像音声により、葬儀の模様を体験し得る事が可能である。

【0014】また葬儀開催者は、弔問者が発信した弔問メールを受信し、その弔問者リスト情報を自動的に葬儀開催者側のコンピュータへ取り込み、データベース化を可能とする。さらに、これらデータベース化された弔問者リストより、宛名書き等の礼状送付作業および礼状Eメール送信作業、香典返しの配送作業を自動化する事が可能である。

【0015】さらに本発明によれば、弔問受付、焼香、お悔やみの言葉、を記入し送信するための書き込みページを前記葬儀ホームページに関連付けて設ければ、弔問者は、葬儀ホームページにおける受付記帳、焼香、礼状受取にて書き込みを行い、葬儀開催者へ送信する事で、実際には式場に赴かずとも、弔問する事が可能となる。送信された情報は、葬儀開催者側のコンピュータへ自動入力され、データベース化される。このデータベース化された弔問者リストにより、礼状送付の際、宛名書き作業、礼状Eメール送信作業および香典返しの配送作業の自動化が図られ、高効率化が可能となる。

【0016】さらに、前記葬儀サイトには、特定人の葬儀情報を公開するために前記特定人の葬儀ホームページに関連付けて、故人略歴を記載するコンテンツと、会社概要を記載するコンテンツと、新聞計報を記載するコンテンツと、式場案内を記載するコンテンツと、葬儀式次第を記載するコンテンツと、参加者名簿を記載するコンテンツと、弔問メールを書き込み送信するコンテンツと、導師略歴を記載するコンテンツと、のうちの少なくとも一つ以上を備えてなるようにすると良い。以上のような構成によると、葬儀開催者および弔問者は、一般の葬儀と同様な葬儀情報に関する詳細を、インターネット接続されコンピュータを用いて葬儀ホームページ閲覧を行うことで、容易でかつ低コストに、公開し、閲覧することが可能となる。

【0017】また、前記葬儀サイトには、特定人の葬儀情報を公開するために前記特定人の葬儀ホームページに関連付けた前記弔問ページが設けられ、該弔問ページと関連付けて、弔辞を映像表示するコンテンツと、弔電披露を映像表示するコンテンツと、葬儀委員長挨拶を映像表示するコンテンツと、呼名焼香を映像表示するコンテンツと、遺族親族焼香を映像表示するコンテンツと、一般会葬者焼香を映像表示するコンテンツと、遺族代表者挨拶を映像表示するコンテンツと、葬儀会場風景を映像表示するコンテンツと、のうちの少なくとも一つ以上を備えてなるようにすると良い。以上のように構成すると、葬儀の模様を、詳細に映像表示することが可能となり、弔問者は、恰も参加したのと同様な情報を得ることができる。

【0018】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施の形態を図面に基づいて説明する。なお、以下に説明する処理ステップ、装置等は本発明を限定するものでなく、本発明の

趣旨の範囲内で種々改変することができるものである。

【0019】図1乃至図8は本発明の一実施例を示すものであり、図1はインターネットを用いた葬儀システムフロー図、図2はインターネットを用いた葬儀システムの、葬儀開催者と弔問者との関係を示すブロック図、図3はインターネットを用いた葬儀システムにおけるホームページのデザイン構成図、図4はインターネットを用いた葬儀システムにおける装置構成図である。図5は弔問者リストデータベース作成を示す説明図、図6は弔問者リストデータベースを用いた礼状送付作業の宛名印刷を示す説明図、図7は弔問者リストデータベースを用いた礼状送付作業の礼状Eメール送付を示す説明図、図8は弔問者リストデータベースを用いた礼状送付作業の香典返し配送を示す説明図である。

【0020】まず、図4における装置構成図について説明する。葬儀開催者および弔問者はそれぞれ、インターネットに接続されたコンピュータを用いて、WWWサービスによって、インターネットを用いた葬儀を行うことが可能となる。

【0021】本例において、葬儀開催者側のコンピュータは、データの演算、制御処理装置としてCPU(1)、記憶装置として、RAM(2)、ROM(3)、HD(4)、記憶媒体装置(5)を備える。さらに、コンピュータには、入力装置として、ビデオキャプチャカード(6)とビデオキャプチャカードへ接続されたビデオカメラ(7)、およびイメージ入力装置(15)が接続され、出力装置としてモニタ(9)およびプリンタ(10)、音声出力を行なうためのスピーカ(11)が接続されている。また、通信接続を行ない、インターネットを用いた葬儀に関わるファイルデータの送受信を行なうための通信端末装置(8)が接続されている。

【0022】弔問者側のコンピュータである所謂パソコン(13a)(13b)の構成は、少なくともCPUと、モニタと、入力装置を備える必要があるが、その他の構成は任意であるがスピーカがあれば音声を認識することが可能である。なお、葬儀開催者側のコンピュータ構成と同様であってもよい。弔問者側は、インターネット接続された通信端末装置を介したパソコンを用いて、葬儀開催者側が公開するホームページを閲覧する。葬儀開催者側の通信端末装置、および弔問者側の通信端末装置は、各々のプロバイダーのWWWサーバ(12)、

(12a)(12b)を介し、インターネット(14)へと接続されている。プロバイダーのWWWサーバ(12)には、葬儀ホームページを掲載するための葬儀サイトが予め開設されるようにしておけば、この葬儀サイトを運営することにより、個別多様な多くの葬儀ホームページを掲載することが可能となり、後述する葬儀ホームページ及び関連付けられた各種コンテンツの作成が迅速且つ安価に提供することが可能となる。なお、本例では

プロバイダーのサーバを例にしているが、NTTのOCNサービス、その他の手段により、自らパソコンをWWWサーバとする構成にしてもよい。

【0023】次に、HTMLファイルを作成するためのHTMLファイル作成用ソフト、もしくはテキストエディタソフト、さらにWWWサービスにおいて、情報データを閲覧するのに必要な閲覧ソフト(ブラウザソフト)を予めROM(3)、HDD等に記憶させる。そして、葬儀のホームページを作成する。この葬儀のホームページは、予め所定形式が複数種類形成されており、これらの複数種類の形式の後述する情報内容を張り付け、格納或いは連結等することによって、構成される。

【0024】さらに、ホームページ上に、葬儀の模様や、故人、参列者等のイメージ画像を用いるため、イメージ入力装置(15)を用いイメージ画像データを取り込みHD(4)、または記憶媒体装置(5)へ記憶させる。また、これらイメージ画像データ、HTMLファイル作成用データもしくはテキストエディタソフトで作成したデータをRAM(2)へ取り込み、CPU(1)との間において演算処理を行なうことで、インターネットを用いた葬儀のホームページのHTMLファイルを作成する。

【0025】葬儀模様を逐次ホームページ上に表示させるために、ビデオキャプチャカード(6)をコンピュータへ拡張接続し、ビデオキャプチャカード(6)にビデオカメラ(7)をAV入力端子に接続することで、ビデオカメラ(7)により撮影録音された葬儀模様の映像音声データをCPU(1)へ取り込み、HD(4)、または記憶媒体装置(5)へ記憶させることが可能となる。

【0026】この際、映像音声データのファイルフォーマットは、RealPlayerG2とし、このフォーマットは動画、音声、文字を統合した環境である。それらに対応した拡張子は、SMI、RA、RM、RAMとする。またファイルフォーマットがShockWaveの場合に、拡張子はDCRとなる。本ホームページは、少なくとも、上記の2ソフトがサポートされることで、映像音声を表示可能なものとしている。しかし、上記ソフトに限らないことは言うまでもない。

【0027】ここで映像音声からなる動画データを受信しながら再生を行う、ストリーム再生を可能とするために、ヘルパーアプリケーションとWWWブラウザソフトに対し機能を追加するプラグインソフトを予めROM(3)或いはHDD等へ記憶させておく。動画データをストリーム再生するには、RAM(2)へブラウザソフトと、ヘルパーアプリケーションと、ブラウザソフトに機能を付加するためのプラグインソフトのプログラムデータと、前述のビデオカメラ(7)において撮影された葬儀模様の映像及び音声データを取り込み、RAM(2)とCPU(1)においてデータ処理されることで、再生可能としている。

【0028】以上の様にして、イメージ画像、映像音声を表示可能なHTMLファイルが作成される。そして、葬儀開催者側のコンピュータは、通信端末装置(8)を介してWWWサーバ(12)へ接続し、所定の葬儀サイトの指定された番地に、HTMLファイル転送を行なうことで、インターネットを用いたWWWサービスにおいて、葬儀ホームページが公開される。また、この葬儀ホームページに関連付けられて、弔問者として弔問メールを記入し送信するための書き込みページ、映像音声により、および映像音声とともにリアルタイムに葬儀の模様を表示する弔問ページ、弔問受付、焼香、お悔やみの言葉、を記入し送信するための書き込みページ、故人略歴を記載するコンテンツ、会社概要を記載するコンテンツと、新聞計報を記載するコンテンツ、式場案内を記載するコンテンツ、葬儀式次第を記載するコンテンツ、参加者名簿を記載するコンテンツ、弔問メールを書き込み送信するコンテンツ、導師略歴を記載するコンテンツ、等が設けられている。また、弔問ページと関連付けて、弔辞を映像表示するコンテンツ、弔電披露を映像表示するコンテンツ、葬儀委員長挨拶を映像表示するコンテンツ、呼名焼香を映像表示するコンテンツ、遺族親族焼香を映像表示するコンテンツ、一般会葬者焼香を映像表示するコンテンツ、遺族代表者挨拶を映像表示するコンテンツ、葬儀会場風景を映像表示するコンテンツ等が設けられる。

【0029】弔問者は、プロバイダのWWWサーバ(12)経由でインターネット(14)へ接続し、葬儀ホームページを閲覧する。ホームページURLは新聞の計報広告、テレビ・ラジオ等のマスメディアを含む計報広告媒体等に明記、公開(51)される。葬儀ホームページ公開から葬儀が行なわれるまでの間、葬儀当日に参列不可能な弔問者は、ホームページ上の弔問メール書きこみフォームにより、弔問メールを葬儀開催者へ送信する(54)ことが可能である。さらに、葬儀当日、葬儀の模様がリアルタイムに表示(58)され、ホームページ上で葬儀に参列することが可能である。この場合、受付記帳(59)、焼香(献花)(60)、お悔やみの言葉(61)、等の書きこみフォームに各々記入を行ない、これらの書き込みデータは葬儀開催者へ送信される。

【0030】弔問者より送信された弔問メール、受付記帳等のデータは、サーバ12を介して葬儀開催者側のコンピュータへ受信される。これらのデータは、所定形式で、HD(4)、または記憶媒体装置(5)へ記憶される。

【0031】葬儀開催者は、これら弔問者に関するデータについて、データベース化(64)する。つまり、データベースを行なうアプリケーションソフトを予めROM(3)、HDD等へ記憶させる。弔問者に関するデータおよびアプリケーションソフトのプログラムデータをRAM(2)へ取り込み、CPU(1)との間において

演算処理を行ない、弔問者に関するデータをデータベース化(64)する。データベースは、形式は問わないが、例えばRDBのように、レコード、フィールド等の集合体としたものとし、各レコード間においてリレーショナルを連携させたような形式でも良く、或いは表形式、カード形式等のものであってもよい。そこでは、少なくとも、氏名、住所は必須であり、故人との関係、年齢、弔慰金、アクセス日時、ログ等を記憶できるようにすると良い。これらのデータを元に葬儀開催者は、弔問者の宛名及び宛先の出力(64a)を行ない、弔問者に対し礼状の送付(65)を行なう。また、弔問メール(54)及び葬儀当日葬儀において参列したWEB弔問者からのお悔やみの言葉(61)を出力したものを、遺族へ伝え、渡す事が可能である。

【0032】データの出力は、モニタ上に、HTMLファイルの作成、ホームページの閲覧、データベース処理等の作業中において、行われている。また音声出力においては、一般的にCPU(1)やメモリとともにマザーボード上に搭載された音源モジュールと内部スピーカ(11)を用いる事により、音声再生される。

【0033】次に葬儀ホームページに関する詳細を、図3ホームページデザイン構成図を用いて説明する。本ホームページは葬儀サイトにあり、葬儀ページ(21)と、弔問ページ(34)とに分けられる。葬儀ページ(21)は、密葬後から社葬が行なわれる期間中に、葬儀情報を公開する(53)。一方、弔問ページ(34)は、社葬の当日、葬儀の模様をリアルタイムで閲覧(58)でき、さらにページ上において弔問(59)(60)(61)することを可能としている。

【0034】葬儀ページ(21)について説明する。葬儀ページ(21)は、密葬から社葬が行なわれる期間中に公開される。本ページには、葬儀情報が公開される。「故人略歴」(22)、「会社概要」(23)、「新聞計報」(24)、「式場案内」(25)、「葬儀式次第」(29)、「参加者名簿」(30)、「弔問メール」(32)、「導師略歴」(33)等のコンテンツを含む。

【0035】葬儀ページ(21)のトップページに関し説明する。コンテンツのメニュー項目をインデックス的に並べた小さいサイズのフレームを固定で構成し、右側画面の大きなフレームの方へ、メニューから選択したページ内容を表示させる。また、特に任意のページを選択しない場合は、コンテンツは自動的にロードされていく。

【0036】また、本ホームページは映像音声の再生を行なう事で、葬儀模様を公開する事が可能としている。そのため動画再生ソフトの入手をサポートしている。コンテンツのメニュー項目が並べられた小さいサイズのフレーム内に、動画再生ソフトを記すコントロール用ボタンを設定し、これらのソフトを容易に入手することがで

10

20

30

40

50

きるように、ソフトのダウンロードサイトへリンクをはる。ボタンをクリックする事で、容易に、ソフトのダウンロードサイトへジャンプする事が可能である。本葬儀ホームページにおいては、ヘルパーアプリケーションとしてRealPlayer G2、プラグインソフトとして、ShockWaveをサポートしている。

【0037】また本トップページ(21)の下端フレームには、葬儀の意味を示す白黒の縦縞模様をあしらひ、会社名「〇〇株式会社」と弔問に対する感謝の意味として、「御弔問頂きありがとうございます。」と交互に表示させる。

【0038】次に各コンテンツの説明を行なう。「故人略歴」(22)において、テキスト表示のみで行なう。生年月日、享年を記し、学歴、職歴、住所、本籍地、叙位叙敗等を記す。「会社概要」(23)においては、企業プロフィールとして設立時期、現社長名、現社長の顔写真からなるイメージ画像、資本金、上位株主、事業所数、年間売上高、従業員数、従業員平均年齢、採用実績、初任給、定年退職年齢、会社資料請求先等を記載する。さらに沿革、および事業内容・現況等について説明記載を行なう。

【0039】次に「新聞計報」(24)の文面を表示する。社葬の日時、場所がテキストのみで記載される。次に「式場案内」(25)となる。ページ右側の大きいフレーム中に、「葬儀場所全体図」(26)、「会場周辺略図」(27)、「会場内見取図」(28)の選択を行なうためのテーブルが構成され、何れかを選択すると、指定ページへジャンプする。各ページにおいて、地図画像が表示される。また、会場周辺地図は、弔問者側が、閲覧画面より出力をし、地図を利用することが可能である。

【0040】次に「葬儀式次第」(29)を説明する。故人名及び役職、逝去した月日、享年を記載する。法号、叙位・叙勲、導師、葬儀・告別式の日時、場所、葬儀委員長、喪主をテキストのみで記載する。

【0041】「参加者名簿」(30)を説明する。複数からなる参加者を列記したテーブルを構成し、参加者名を選択すると、その参加者に関するデータ閲覧ページへジャンプする。参加者データ(31)は、参加者の顔写真からなるイメージ画像とともに、役職が明記される。

【0042】「弔問メール」(32)を説明する。弔問者が本コンテンツに注意力を向ける様、「弔問メール記入欄」とタイトル表示を行ない、さらに書き込みフォームを構成する。葬儀に参加不可能な場合、予め弔問者が、弔問メールの書き込みを行なうことができる。書き込みフォームには、「ご芳名及びふりがな」、「郵便番号」、「ご住所または会社名」の一行入力欄を設ける。さらに、「お言葉」としての複数行入力欄を設ける。表示ウインドウ中の「記入完了」というテキストを転送ボタンとして設定し、書き込みの記入を完了した際、この

「記入完了」をクリックし送信を行なう。葬儀開催者側は、これらの書き込みデータを受信し、個人情報ファイルとして、保存する。さらに、弔問メール内容も同様に、ファイルとして保存され、尚且つ出力され、追族へその内容が伝えられる。

【0043】「導師略歴」(33)について説明する。寺院の写真を元にイメージ画像を表示し、導師の寺院名、住所、導師名を明記する。以上が葬儀ページに関する説明である。

【0044】次に弔問ページ(34)に関し説明する。弔問ページ(34)のトップページは、「ご葬儀の模様」(35)、「弔問する」(44)のコンテンツから構成される。葬儀ページ(21)のトップページの場合と同様で、コンテンツのメニュー項目をインデックス的に並べた小さいサイズのフレームを固定で構成し、右側画面の大きなフレームの方へ、メニューから選択したページ内容を表示させる。また、特に任意のページを選択しない場合は、コンテンツは自動的にロードされている。

【0045】弔問ページ(34)は、「ご葬儀の模様」(35)において、告別式の直前に行なわれる葬儀の現場取り入れ映像より、致場面を表示させる。社葬の当日、「弔問する」(44)により、インターネット上の葬儀ホームページにより告別式へ参列し、映像をリアルタイム再生しながら閲覧し、焼香(46)を行なうことが可能である。また告別式直前はホームページの公開が中断される。その間、葬儀ページ(21)から弔問ページ(34)へ更新するため、葬儀模様の映像音声表示を行うためのHTMLファイルのアップロードを行なう。告別式当日は、午前零時までインターネット上の葬儀ホームページへアクセス可能である。

【0046】弔問ページ(34)の公開直後は、多数の弔問者からのアクセスにより、WWWサーバが混雑する場合が考えられる。WWWサーバが極端に混雑した場合、一部の弔問者は葬儀ホームページへアクセス不可能となる。社葬が行われる以前の段階で、葬儀ページのトップページにて、弔問ページ公開直後のアクセス集中を避けるよう、弔問者に対し予め警告メッセージを示す。映像音声データによるHTMLファイルは、葬儀開催者側がWWWサーバへ転送しているため、弔問者は、告別式当日の午前零時までに、ホームページへアクセスする事ができれば、映像音声はストリーム再生され、弔問は可能である。

【0047】「ご葬儀の模様」(35)に関し説明する。「ご葬儀の模様」(35)には、「弔辞」(36)、「弔電披露」(37)、「葬儀委員長挨拶」(38)、「呼名焼香」(39)、「追族親族焼香」(40)、「一般会葬者焼香」(41)、「追族代表者挨拶」(42)、「葬儀会場風景」(43)のコンテンツから構成される。

【0048】「ご葬儀の模様」(35)では、告別式前に行なわれた葬儀の模様を、各コンテンツ毎に映像表示する。葬儀開催者は、予め葬儀映像を編集し、ホームページに映像が表示されるウィンドウを形成し、この中の人物の氏名を、ウィンドウ下方部に明記する。

【0049】編集作業では、右側画面の大きなフレーム内へ、映像表示を行うために、動画ファイルを貼りつける作業を行う。動画ファイルは、必然的にファイルサイズが大きくなる。大きなサイズのファイルを有するホームページは、ブラウザソフト上に表示する際に、ファイルのダウンロード時間を費やしてしまう。また本葬儀ホームページでは動画のストリーム再生を行うため、データを受信しながらの再生作業を行うため、ファイルサイズは可能な限り小さくする。

【0050】ファイルサイズを小さくするため、まずファイルの圧縮を行う。これはファイルフォーマットにより圧縮が行われ、データを再生する際に再生ソフト上で自己展開(解凍)されるため、特に弔問者側が展開(解凍)ソフトを準備する必要はない。

【0051】また再生画面を表示するウィンドウのサイズを調整する。ウィンドウのサイズが小さいほどファイルサイズは小さくなる。さらに、動画を構成する1コマずつの画像ファイルのサイズを小さくする。画像としては、劣化した画像となるが、連続された映像となると劣化を気にすることなく動画再生を行うことが可能である。

【0052】次に「弔問する」(44)に関し説明する。このコンテンツは、映像音声からなる動画データのストリーム/リアルタイム再生を行うことで、告別式の模様をリアルタイム映像により表示する事が可能である。

【0053】「弔問する」(44)には、「受付記帳」(45)、「焼香(献花)」(46)、「礼状受取」(47)、のコンテンツが含まれている。これらは、書き込みフォームより構成され、弔問者は書き込みを行なう。書き込みされたフォーム上の情報は、葬儀開催者へ返信される。これらの書き込み情報は、個人情報ファイルとしてHD(4)もしくは記憶媒体装置(5)へ保存され、また記帳の際に、お悔やみの言葉が記入された場合、この内容は出力され、遺族へ伝えられる。また告別式当日の午前零時までの間、葬儀ホームページは公開され、弔問を受け付ける。

【0054】「弔問する」においては、映像音声からなる動画データのストリーム/リアルタイム再生を行うため、前述のヘルパーアプリケーション、及びプラグインが必要である。さらに、データの受信状態を維持するためには、高速通信回線によるWWWサーバへの接続が望まれる。

【0055】次に図1、図2を用い、インターネットを用いた葬儀システムに関するフロー、ブロックについて

説明する。密葬(50)を行なった後、訃報広告(70)及び記事に葬儀ホームページURLを記し公開(51)する。また、関係者宛にEメールを発信し葬儀ホームページのURLを伝えることで、葬儀に関する情報を正確に関係者へ伝える事が可能である。全世界的に、広範囲に存在すると考えられる弔問者は、インターネットのWWWサービスを用いることで、場所や時間に依存することなく、葬儀サイトにおける、葬儀ホームページへアクセスし、弔問を行なう事が可能である。

10 【0056】次に葬儀ホームページを、故人が生前在職していた企業の自社ホームページの、葬儀ページのひとつとしてアップロード(52)する。ホームページを作成し(ホームページデザインに関して図3を用いて前述)、これらHTMLファイルをWWWサーバへ転送する。葬儀ページは、社葬が行なわれるまでの間の公開となる。

【0057】葬儀ページにより、葬儀情報が公開(53)される。告別式が行なわれる日時や場所が記載され、故人の略歴が記される。さらに、社葬当日、参列不可能な場合に、弔電の代替として、予め葬儀ページの「弔問メール」において書き込みを行ない、これらのデータを葬儀開催者(71)は受信する(54)ことが可能である。

【0058】社葬が行なわれると、葬儀開催者(71)は、葬儀模様の映像撮影(56)を行なう。次に、葬儀の映像音声データより映像編集を行なう。ホームページにおいて表示する映像を選択する。また弔辞を読みあげている人物の氏名を、映像が表示されるウィンドウの下方部分に表示させる等のテキスト入力編集作業を行なう。

【0059】次に弔問ページのアップロードのために、映像音声表示を行うためのHTMLファイルをWWWサーバへ転送(57)する。

【0060】弔問ページでは、葬儀模様の映像と、尚且つリアルタイムな告別式の映像とを、公開する(58)事が可能となる。告別式が行なわれる直前においては、弔問サイトのアップロードや、「葬儀の模様」に関する映像音声データの処理作業があるため、告別式直前は、ホームページへアクセス不可能となる。告別式が開催される時点で、本ホームページはアクセス可能となる。

【0061】当日、式場へ赴く事の不可能な弔問者(72)は、葬儀ホームページの弔問ページにより、リアルタイムで告別式を閲覧(58)しながら、弔問を行なう。書き込みフォームにより構成された、受付記帳欄に記入し、葬儀開催者(71)へ送信(59)する。さらに焼香(献花)(60)、礼状受取(61)、も同様に書き込みフォームが用意されており、記入送信を行なう。

【0062】葬儀開催者(71)は、社葬終了(62)後、社葬当日の午前零時までの間、葬儀ホームページへ

のアクセスを可能とし、弔問者からのデータを受信（59）（60）（61）する。社葬当日の午前零時にて、葬儀ホームページのHTMLファイルをWWWサーバより削除（63）する。この削除は、予め時刻設定を行い、自動的に削除するように構成する。

【0063】葬儀開催者（71）は、弔問ページ（34）において受付記帳（45）、焼香（46）、礼状受取（47）を行なった弔問者（72）に関するデータベースを作成（64）する。また葬儀ページ（21）において、弔問メール（32）の書き込み送信を行った弔問者について同様にデータベースを作成（64）する。ここで、弔問者リストデータベース（100）作成の一例について図5を用いて説明する。例えば葬儀ホームページ（21）上における「弔問メール書き込み送信フォーム」（32）において、「前日弔問フォーム」と表示させる。弔問者は各項目へ必須事項を記入し、送信（101）する。これら弔問者データはインターネットを介し、WEB葬儀用サーバへ送信される。葬儀開催者はデータベース作成を行うためのアプリケーションソフトとして、「弔問フォーム受付プログラム」（102）を予めサーバ装置側のROMまたはHDD等へ記憶させ、弔問者データ及び弔問フォーム受付プログラムデータをRAMへ取り込み、CPUとの間において演算処理を行う。演算処理の一例（103）として、弔問者データの必須項目のチェックを行い、必須項目が未入力の場合、弔問者に対しエラー表示ならびに再入力メッセージを表示する。さらに文字データの変換（SJISコード変換、半角カナ→全角カナ）を行った後、データベース書き込み処理（104）が行われる。これら弔問者リストデータベース（100）における弔問者情報項目の一例として、「ご芳名」、「入力日」、「会社名」、「部署名」、「Eメールアドレス」、「住所」、「お言葉」等が挙げられる。また「弔問フォーム受付プログラム」（102）では弔問者リストのカテゴリ設定および分類を行う。カテゴリ分類例として、WEB葬儀参列弔問者と弔問メールのみ弔問者との区別、住所、御香料による分類等が挙げられる。また、受信した弔問メールは印刷し、遺族へ報告する。さらに、図6より、礼状返送（65）作業の一例を説明する。葬儀開催者側は、データベースを元に、宛名宛先の出力（64a）を行ない、礼状返送（65）作業を行なう。礼状返送作業側側のコンピュータ装置はインターネットに接続され、ブラウザ上に、HTML形式で作成された弔問者リストデータベースのダウンロード指示画面（110）を表示させる。葬儀開催者側の礼状返送作業者は、弔問者リストデータベース（100）のダウンロード指示（112）を行う。ダウンロードプログラム（111）を予めサーバ側のROMまたはHDD等へ記憶させる。ダウンロード指示データ及びダウンロードプログラムデータをRAMへ取り込み、CPUとの間で演算処理が行われ、弔問者リストデ

ータベース（100）より弔問者データを抽出（113）し、これらのデータは葬儀開催者側の礼状返送作業者のコンピュータ装置へ送信（116）され、宛名印刷用プログラム（114）と共に、作業側側のコンピュータ装置側のROMまたはHDDへ記憶される。弔問者データ及び宛名印刷プログラムデータをRAMへ取り込み、CPUとの間で演算処理され、宛名印刷が実行（115）される。また、WEB葬儀への参列を行った弔問者の場合と、弔問メールのみの弔問者の場合とで、礼状文章の内容を対応させ印刷すること、もしくは別途印刷工程にて予め礼状文章のみの印刷を行うことも可能である。次に図7を用いて説明すると、礼状返送（65）作業は郵便による返送のほか、通信回線を介したEメールにより、礼状Eメールの送信作業を行う場合もあり得る。一例として、礼状Eメール送信を行う作業者のコンピュータ装置において、これらコンピュータ装置はインターネットに接続され、ブラウザ上にHTML形式により作成された「礼状Eメール書き込み送信フォーム」である「礼状Eメール送付」画面（120）を表示させる。メール配信プログラム（121）データはサーバ装置側のROMまたはHDD等に記憶される。また弔問者リストデータベースにおけるカテゴリに対応した「礼状文章」を予め礼状文章データベース（122）として作成しておき、これらのデータはサーバ装置側のROMまたはHDD等に記憶される。メール配信プログラムデータ、弔問者リストデータ、礼状文章データは、RAMへ取り込まれ、CPUとの間で演算処理されることで、各データベースより、弔問者および礼状文章データが抽出（124）される。書き込みフォーム画面上にて、「ご芳名」の入力を行うことで、弔問者に対応した「Eメールアドレス」、および弔問者リストのカテゴリ分類に対応した「礼状文章」が抽出される。また「Eメールアドレス」の入力指定より、「ご芳名」、「礼状文章」の抽出も可能である。このようにして礼状Eメールが自動作成され、書き込みフォーム画面上にて送信（123）を行うことで、各弔問者に対し、礼状Eメールの自動送信が可能となる。礼状文章データベースについて、さらに説明する。例えば、ホームページ閲覧により弔問を行った弔問者カテゴリと、香典、供花のみの弔問者カテゴリに対して、礼状文章内容は異なる。前者の場合、例えば「亡〇〇儀 葬儀の際はご多忙中にも拘わらず御会葬下され…」と表記され、後者の場合、「亡〇〇（或いは戒名）葬儀の際は御鄭重なる御厚志を賜り…〇月〇日、本葬をとりおこない…」等の内容が表記される。また弔問者住所によるカテゴリ分類が行われた場合、地域によって葬儀に関する価値観が異なる場合があるため、それら価値観に見合った礼状を作成する場合も考えられる。一例として、地方域在住の弔問者に対しては、本葬に加え、七日法要や納骨等の日程を記すなどの、より詳細なあいさつ文が必要であり、さらには、東北地方、九州地方など

の地域別礼状文章を作成する。一方、都心域在住の弔問者に対しては、特に詳細な内容は必要なく、例えば「御香典ありがとうございました」等の感謝の意を十分に伝えることが可能な文章を作成する。また、弔問者は日本国内のみならず、海外在住の場合もあり、さらに弔問者が外国人である場合がある。その際には、外国語による礼状内容の表記が望ましい。以上述べたように、弔問者リストデータベースを幾つかのカテゴリに分類し、それに対応し作成された礼状文章を自動入力していく。なおホームページ閲覧により弔問を行う弔問者が、弔問ページ(34)における「弔問する」(44)ページ上で、「受け付け記帳」「焼香」「礼状受取」を行うことは先に述べたが、例えば、「礼状受取」(47)ページにおいて、弔問者が送信指示を行うことにより、弔問者データおよび礼状文章が抽出され、礼状Eメールが自動作成、自動送信され、弔問者が礼状Eメールを受信するといった一連作業の自動化が可能である。次に図8により、香典返しの配送の一例について説明する。香典返しの配送作業者のコンピュータ装置は、インターネットへ接続され、ブラウザ上にはHTML形式による「香典返し配送フォーム」(130)を表示させ、送信を行うことで配送指示(133)を行う。サーバ装置側のROMまたはHDD等へ、配送プログラム(131)を記憶させる。また香典返し目録データベース(132)、弔問者リストデータベース(100)の各データもサーバ装置側のROMまたはHDD等へ記憶される。ここで香典返し目録データベース(132)は、御香料もしくは弔慰金の金額に応じた返礼品目録とする。配送プログラムデータ、香典返し目録データ、弔問者リストデータをRAMへ取り込み、CPUとの間で演算処理を行い、弔問者データと返礼品データが抽出(134)され、「香典返し配送フォーム」(130)において、「ご芳名」「住所」「返礼品」の入力が行われる。例えば、「ご芳名」に入力を行い、その弔問者データに対応した住所が自動入力され、弔問者カテゴリ(この場合、御香料による分類)に対応した返礼品が決定され、入力される。この配送データは、サーバを経由し、返礼品の梱包および配送作業を行う作業者のコンピュータ装置へ送信(135)される。配送データをもとに香典返しである返礼品は梱包され、配送伝票が自動作成されたのち各々の返礼品に付され、各弔問者宛に配送(136)されることで、香典返しの配送作業の自動化も可能となる。返礼品の梱包および配送業者へ配送データを伝達する手段は、前述の通信回線を用いた手段のほかに、配送伝票をFAXや郵送等を用いる場合もあり得る。なおホームページ閲覧により弔問を行った弔問者に対し、弔問ページ(34)「礼状受取」(47)にて送信指示が行われ、礼状Eメールが弔問者へ自動送信される場合を述べたが、同ページに「お返し」のページを設け、弔問者の弔慰金に対応した返礼品の目録が提示され、弔問者は所望の返礼品を選択入力し、送信を行うこ

とで、香典返しが後日各弔問者に配送されることを可能とする。先に述べた、データベースのダウンロード指示(図6)、礼状Eメール送付(図7)、香典返し配送(図8)の各作業を行うために、作業側側のコンピュータ装置は、インターネット或いはイントラネットへ接続し、作業者は各作業を行うためのコンテンツを設けたホームページ上で作業を行う。このようなネット上での連携作業は、葬儀開催者側の複数の部署や作業、または外部の提携業者における作業等が効率的に各作業を行うことを可能とする。また特に前述の作業用ホームページを利用せずに、作業者が、通信回線に接続されたコンピュータ装置により、通信回線を用いてデータベースのファイルを指定し、弔問者リストデータベース等をダウンロードすることも当然可能である。またWEB葬儀用サーバ上で各作業を行う場合は、ダウンロード作業は省略される。また礼状Eメールや配送データの送信を行う際に、Eメール送信用のアプリケーションソフトを単一に利用することも当然可能である。

【0064】これらインターネットを用いた葬儀システムは、社葬を執り行う場合に適応される。世界各国において存在する弔問者が、時間や場所の問題が理由で、葬儀に参列不可能な場合があるため、インターネットのWWWサービスによるホームページ閲覧によって、容易に低コストで、リアルタイムな葬儀模様の映像表示、さらに弔問を可能としている。ここでは一般的に用いられる「弔電」の代替として「弔問メール」の送信をも行なう。

【0065】さらに、弔慰金、香典、供花等について、受付ページを設け、その受付ページに、クレジット番号、暗証番号(記号)、金額等を入力する入力部を形成し、弔慰金、香典については、その金額記入欄に金額を記入することにより、弔慰金、香典をすることが可能である。また、供花等については、生花、花輪の種類と金額を特定する入力部(或いはチェック部)、提供者名の記入欄等を設け、これらの所望を指定或いは入力することにより、予め葬儀開催者側が指定してある生花・花輪取り扱い業者から直接、葬儀場へ届けるように構成することも可能である。このような弔慰金、香典については、葬儀終了まで、供花等については、葬儀当日の数時間前まで受け付け可能にすることができる。なお今後、電子マネーの普及が見込まれており、その電子マネーを用いることで、香典、供花の受付が、キャッシュレスで受け付け可能となる。

【0066】また図4において、葬儀開催者、弔問者のコンピュータとサーバが、各々1対1の形でインターネットへ接続されているが、実際に、この図例以外の接続形態も考えられる。インターネットを介する際に、さらに幾つものサーバを経由する場合がある。また、弔問者が、葬儀開催者の利用するサーバと同サーバに接続し、ホームページ閲覧を行う場合もある。

【0067】このように、本発明はここでは記載していない様々な実施の形態を含むことは勿論である。したがって、本発明の技術的範囲は上記の説明から妥当な特許請求の範囲に係る発明特定事項によってのみ定められるものである。

【発明の効果】以上のように、本発明によれば、インターネットを用いたWWWサービスによるホームページ閲覧により、葬儀の模様をリアルタイムで映像表示する事が可能である。また、本発明によれば、実際には葬儀式場に赴かずとも、葬儀ホームページの弔問ページ上において、弔問する事が可能である。本発明によれば、インターネットを用いたWWWサービスによるホームページ閲覧という容易でかつ低コストな手段によって、葬儀の模様をリアルタイムで映像表示し、全世界に発信する事が可能である。弔問者リストを自動的に取り込み、データベース化する事で、礼状送付作業の宛名書き、礼状Eメールの作成、送信作業、および香典返しの配送業務の自動化による高効率化が可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】インターネットを用いた葬儀システムのフロー図である。

【図2】インターネットを用いた葬儀システムの、葬儀開催者と弔問者との関係を示すブロック構成図である。

【図3】インターネットを用いた葬儀システムにおけるホームページのデザイン構成図。

【図4】インターネットを用いた葬儀システムにおける装置構成図である。

【図5】弔問者リストデータベース作成を示す説明図

【図6】弔問者リストデータベースを用いた礼状送付作業の宛名印刷を示す説明図

【図7】弔問者リストデータベースを用いた礼状送付作業の礼状Eメール送付を示す説明図

【図8】弔問者リストデータベースを用いた礼状送付作業の香典返し配送を示す説明図

【符号の説明】

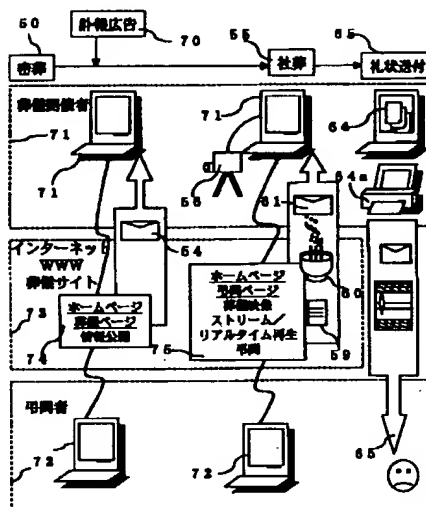
- 1 CPU
- 2 RAM
- 3 ROM
- 4 HD
- 5 記憶媒体装置
- 6 ビデオキャプチャカード
- 7 ビデオカメラ
- 8 通信端末装置
- 9 モニタ
- 10 プリンタ
- 11 スピーカ
- 12 サーバ
- 13 弔問者PC
- 14 インターネット
- 15 イメージ入力装置

- 20 葬儀ホームページ トップページ
- 21 葬儀ページ
- 22 故人略歴コンテンツ
- 23 会社概要コンテンツ
- 24 新聞計報コンテンツ
- 25 式場案内コンテンツ
- 26 葬儀所全体図
- 27 会場周辺略図
- 28 会場内見取図
- 29 葬儀式次第
- 30 参加者名簿
- 31 参加者名
- 32 弔問メール書き込み送信フォーム
- 33 導師略歴
- 34 弔問ページ
- 35 葬儀の模様コンテンツ
- 36 弔辞映像
- 37 弔電披露映像
- 38 葬儀委員長挨拶映像
- 39 呼名焼香映像
- 40 遺族親族焼香映像
- 41 一般会葬者焼香映像
- 42 遺族代表者挨拶映像
- 43 葬儀会場風景映像
- 44 弔問するコンテンツ
- 45 受付記帳書き込み送信フォーム
- 46 焼香(献花)書き込み送信フォーム
- 47 礼状受付書き込み送信フォーム
- 50 密葬
- 51 計報広告上にWEB葬儀ホームページURL公開
- 52 葬儀ページのアップロード
- 53 葬儀情報公開
- 54 弔問メール・受信
- 55 社葬
- 56 葬儀映像撮影
- 57 更新 弔問サイトのアップロード
- 58 リアルタイム葬儀公開
- 59 弔問受付記帳・受信
- 60 焼香(献花)・受信
- 61 お悔やみの言葉・受信
- 62 社葬終了
- 63 葬儀ホームページ HTMLファイルの削除
- 64 弔問メール/弔問リスト データベース化
- 65 御礼状の返送
- 70 計報広告
- 71 葬儀開催者
- 72 弔問者
- 73 インターネット WWW
- 74 葬儀ホームページ葬儀ページ 葬儀情報公開
- 75 葬儀ホームページ弔問ページ 葬儀映像ストーリー

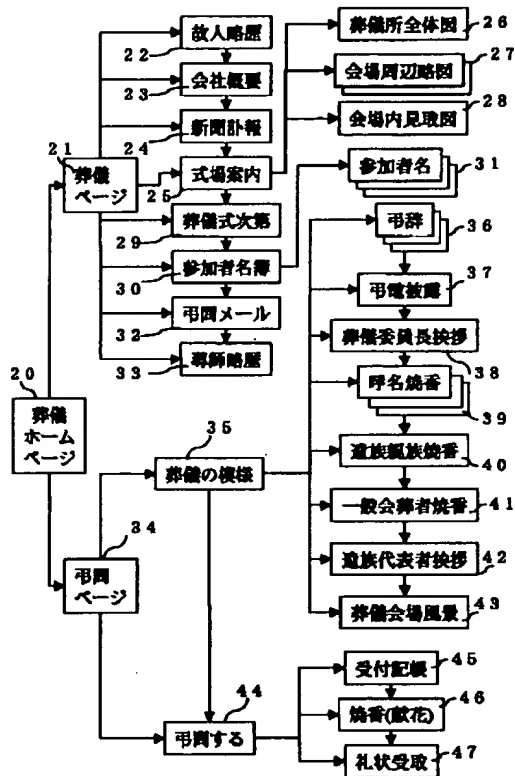
劇の実行

136 配送

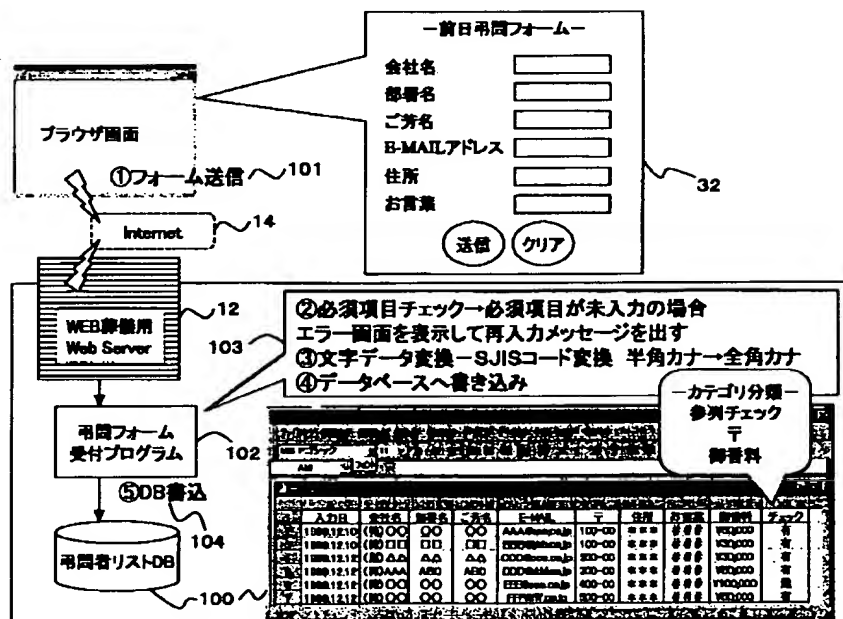
【図2】



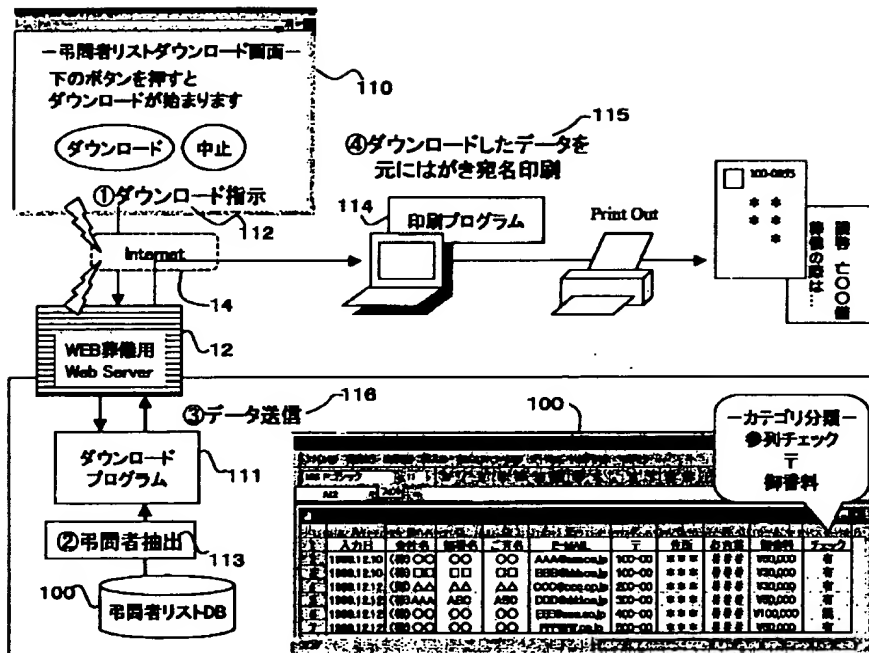
【図3】



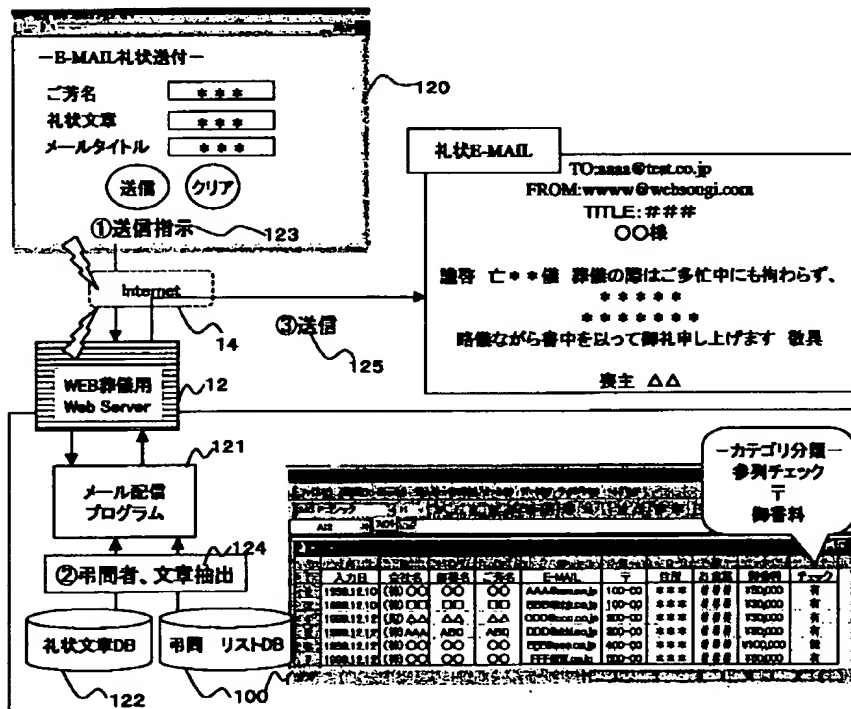
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

